

2008.8.31

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会

〒525- 草津市笠山八丁目4番25号

0072 滋賀県立精神医療センター気付

TEL/FAX 077(567) 5250

http://www.mental-shiga.com

E-mail smental@ex.biwa.ne.jp

滋賀県精神保健福祉協会だより

「こころの健康フェスタ2008」

滋賀県立精神保健福祉センター 佐保田 圭吾

本来は、梅雨空が広がるはずの七月六日は、朝からとても暑い日曜日になった。

少し早すぎる夏空の下、「こころの健康フェスタ2008」は大津市におの浜にある「ピアザ淡海」で開催されました。

午前中は、滋賀県精神保健福祉協会の総会があり、「こころの健康フェスタ2008」会場前のロビーでは、滋賀県精神障害者家族会連合会（鳩の会）主催の当事者の作品展「第四回案々展」の一三四点出展作品が展示されました。また、日本精神科看護技術協会滋賀県支部の活動紹介のブースや、日本精神科病院協会滋賀県支部などの四つの関係団体の紹介展示のコーナー、無料相談コーナー、幻聴の疑似体験コーナー、湖岸公園ではお馴染みのたこ焼きもどきやかき氷等やじゃこパンの試食、販売コーナーなどを、約三〇〇名の参加者が「おおつ光ルくん」と「紫式部」が表紙に描かれた「こころの健康フェスタ2008」のパンフレットを手に展示物を見たり、試食をしたりして賑やかに始まりました。

はじめに、主催者を代表して、滋賀県精神保健福祉協会の山田尚登会長と本年度よりフェスタの共催となった日

本精神科看護技術協会滋賀県支部の脇坂直隆支部長の開会の挨拶がありました。

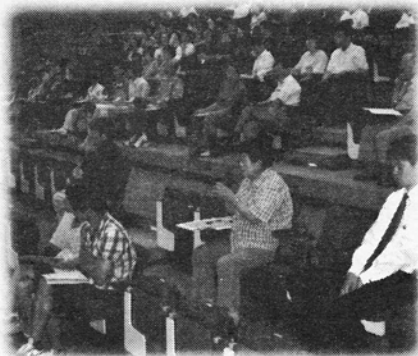
つづいて大津市健康保険部長の久保俊夫様から大津市長様のあたたかいご祝辞をいただきました。

講演に先立ち、滋賀県精神保健福祉協会会長表彰ならびに精神保健福祉事業功労者知事表彰式を行いました。両表彰は、本県において精神保健福祉に功労のあった団体、個人を表彰し、もつて、今後の滋賀県における精神障害者の保健福祉の一層の向上を図る表彰です。



講演する 日高敏隆 先生

滋賀県精神保健福祉協会会長表彰を、豊郷病院看護師長の秋山妙子様、水口病院栄養科主任の石部重美様、水口病院副院長の稲熊敏広様、滋賀里病院デイケアの宮坂義徳様が受賞されました。



会場風景

続いて滋賀県精神保健福祉事業功労者知事表彰を、水口病院医師の勝又隆様、長浜青樹会病院看護師の木村力様、滋賀県精神障害者家族会連合会にて当事者活動について功績のあった鮫江喜世様、湖南クリニック院長の楳林理一郎様が受賞されました。受賞者を代表して、楳林理一郎様が謝辞を述べられ、受賞の喜びと今後の活躍についての決意を述べられました。

次に、「こころの健康フェスタ」では、お馴染みになりました、イケメンお笑いコンビのメンスサタデーズ（NPO法人サタデーピアのお笑いコンビ）：普段は精神保健福祉士として活躍している）による漫才が披露され、会場は爆笑につつまれました。



メンズサタデーズ
(漫才)

そしていよいよ、緞帳があがり日高敏隆先生の講演「人間本来の育ち方」が始まりました。

本来、猫は単独で暮らす犬は群れで暮らす生き物であるという話から始まり、人間とはかつてどういうふうに住らしてきた動物であるかというお話になりました。

ホモ・サピエンス(賢い人)という種が現れたのは、二、三〇万年前のアフリカと言われている。初めは森林で果物などを食べて暮らしていたホモ・サピエンスはやがて森を出て(森林減少が原因とも言われている)、草原で狩りをして暮らすようになった。ホモ・サピエンスは牙も鋭い爪もなく、おおよそ武器となるものをもたない動物であったにもかかわらず、ライオンやヒョウの様な恐ろしい肉食獣がうようよしている場所でのようになんて生き延びてきたのであろうか。

おそらく、二〇〇、三〇〇人といった相当大きな集団をつくって生活していたからではないか、集団で投石すればライオンなどの大型の肉食獣などで

も容易に追い払えたはずであり、集団が大きいほど生存しやすかったはずである。

このように、大きな集団を形成することによって何十万年と生き延びてきた人間という動物には、長い歴史の中で、集団のなかで人間同士の付き合いを学び「集団の中で育つ」という遺伝的プログラムの特徴があるはずである。人間は、標準的な人間が存在する訳ではなく、必ず偏り(個性)がある。

親や兄弟、おじさん、おばさん、おじいさん、おばあさんや、他の家族の大人などいろいろな年齢や性格の大人や仲間のすることを観察し模倣することにより、「集団の中で育つ」という遺伝的プログラムは具体化してきたと考えられる。

チンパンジーやゴリラも集団をつくるが人間ほど大きな集団をつくることはできない。ゴリラやオラウータンなどは、元々小集団が単独で暮らす動物であり、このような、「大きな集団の中で育つ」という遺伝的プログラムを持たないため、人間のように大集団を形成して生活できない。

猫は、五、六匹の子猫を、子どもを守るために母猫だけで育てる。しかし、猫は、「個で育つ」という遺伝的プログラムを持っていて、雄の子猫は親の雄としての振る舞いを見る機会がなくとも、雄として成長していく。

ほとんどの動物は親が子どもに学習をさせることはない。子どもが育つのを見守るだけである。猫は、獲物のネ

ズミを巣に持ち帰り、子猫に与えて狩りの練習をさせていると考えられているが、実は安全に獲物を食べるために巣に持ち帰っていることが分かってきた。

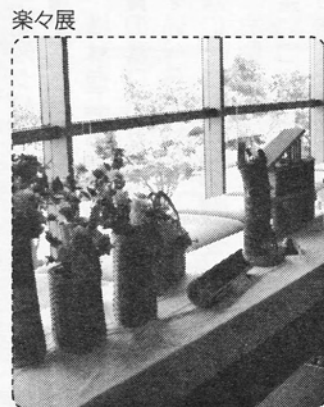
現代のように、親と子だけの生活集団では、二〇〇、三〇〇人といった大きな集団で経験できた、多様な個性との付き合い方を経験できず、大集団で生きていくための、自然に経験できた遺伝的プログラムを具体化できにくくなっている。

学校は、同じ年の子どもを集め学習させるための集まりで、多様性に欠ける集まりであるため、多様な人間の集まりの中で、いろいろな経験を学んで「集団の中で育つ」という遺伝的プログラムが具体化して、いくことが難しいシステムである。

滋賀県立大学の学長の頃から、基本的に子どもは、自ら周りの大人を観察して、周りに関心を持って自分で学んで自分で育っていくものであると考えていたので、滋賀県立大学創立時に、「本学は人を育てません、学生が自分で育つ大学です」というパンフレットをつくり論議があったが、企業の就職担当者から「自分で育つた学生を採用したい」と言われてほっとした。その後、卒業生は各方面で期待どうり活躍している。

講演後に、長年にわたる御苦労に対して、瑞宝重光賞(すいほうじゅうこうしょう)を受賞されたことなどの、

日高先生の近況について、司会者より紹介があり会場から、盛大な拍手がありました。



楽々展

休憩をはさんで、「人間は遺伝が環境か」をテーマに滋賀医科大学精神医学講座の山田尚登教授と日高先生の対談が、大野雄子氏の司会により行われました。

睡眠と人間の行動の関係について、「早寝、早起きの人はうつ病になりにくい、遅寝、遅起きの人はうつ病になりやすい」という山田先生の自説の紹介から対談は始まりました。

睡眠と、人間の本来の育ち方の対話になり、鯨は水面まで浮き上がって呼吸する関係から、長時間にわたり睡眠することはない、動物には固有の睡眠パターンがあり、このパターンを崩すと悪影響が出る。母ネズミを断眠させると子ネズミを食べたりする。遺伝的プログラムに合わないことを長く続けると「誰でもいいから殺したい」などという困った事が起こるのではないかと。いったところまで対話は、続きました。

現在のように、親と子だけの生活で

は、かつてのように二〇〇、三〇〇人といった相当大きな集団で暮らすことは出来ないため、遺伝的プログラムが発現しないのではないかと思いますが、どのようにすべきですかとの司会者からの質問に対しては、もはや、二〇〇、三〇〇人といった大きな集団で暮らすことは出来ないが、かつてのように地域や隣近所で子どもを見守る、叱る、いろいろな体験をさせる。危険だから何でも禁止するような教育ではなく、多様な人間の生き方を体験でき、考えられるような教育体系が必要である。との回答がありました。

会場からの質疑応答では、二〇〇、三〇〇人といった相当大きな集団ではなく、何万何十万とさらに大きな集団になると多様化が後退して、かえって均等化し、多様性が失われるのではないかとこの質問には、確かに二〇〇、三〇〇人の大ききくらの集団ではないと、子どもが育つ集団としては不適ではないか考えられる、との答でした。大学はいかにあるべきかという質問には、学生に面白みがなくなってきたのですか、いや、大学の先生に面白い人がいなくなったのではないかなど、やり取りがあり、今後の大学のあり方について、日高、山田両先生の持論が展開されました。

三交代勤務の影響についての質問には、人間は、夜寝て昼働く遺伝的プログラムを持つ動物であるから、できればしないほうがよい、医学的には対策が考えられつつあり、体質的にも向き

不向きがあることがわかってきた、睡眠のリズムを取り戻すには朝強い光を浴びるのがよい。うつ病の人の回復には、昼寝ているのではなく、昼間散歩などした方が回復が早い。との山田先生の回答がありました。

均等化した集団についての質問があり、カルト宗教のような集団は社会的な問題で生物学的な問題ではない。人間は弱い生き物なので、「まずいな」と思う集団に属しても自分で合理化してしまい、なかなか抜け出ることが出来ない、などいろいろな内容について、活発な質疑応答が続きました。

最後に「こころの健康フェスタ2008」の閉会にあたり、滋賀県立精神医療センター病院長兼滋賀県立精神保健福祉センター所長で、滋賀県精神保健福祉協会副会長の辻元宏より「前頭葉は年齢にかかわらず進歩する、前頭葉の進歩と、何でも経験してやろうという意志を持って、経験の多様性を持ち続けるなら、幾つになっても、人間はいろいろな問題を解決できる」との挨拶があり盛会の内に閉会しました。終わりにりましたが、ご後援をいただきました。大津市・大津市医師会・大津市教育委員会・大津市健康推進員協議会・大津市社会福祉協議会や滋賀県医師会・滋賀県教育委員会・滋賀県精神神経科医会・滋賀県精神神経科診療所協会・日本精神科病院協会滋賀県支部、の皆様、また、当日協力をいただきました。精神作業所等の関係機関の皆様、誠にありがとうございました。

こころの健康フェスタ2008 アンケート集計

感想、意見、要望等(抜粋)

講演・対談について
日高先生のお話は素晴らしいと思った。納得できた。
人間が動物の一種であるという視点が興味深かった。
「子どもは自分で育つ」と言う言葉に目を開かれる思いがした。
山田先生のお話も、もう少し聞きたかった。
対談、質疑応答が面白かった。
対談のテーマが広すぎたように思う。少し難しかった。
多様な質問に驚いた。

その他

日精舎の活動を知ることができた。展示された作品がどれも素晴らしい。相談コーナー等、いろいろなブースがあつてよかった。漫才が面白かった。出店が楽しめた。

今後のフェスタについて

もう少し身近で具体的なテーマを希望します。
こころの病気や治療中の生活に役立つ話が聞きたい。
心豊かな老後についてテーマにしてほしい。



なぎさ公園での出店風景

- アンケート回収数…60
- 回収率 22% (参加者 270 人で計算)
- 37 人 (回答者の 62%) が興味深かった、18 人 (同 30%) が少し興味を引かれたと、答えました。(良くなかった: 1 人、無回答: 4 人)

第十二回総会報告

平成二十年七月六日「こころの健康フェスタ2008」に先立ち、午前十時からピアザ淡海において、第十二回総会が開催されました。

山田会長の挨拶に引き続き、議長に曾根博氏(滋賀県精神障害者家族会連合会)が選出されました。議事として理事會報告、平成十九年度事業報告・決算報告、平成二十年事業計画・予算について、続いて平成二十年の活動方針(案)について討議がおこなわれ、原案どおり承認されました。これにより設立十二年目の協会がスタートしました。(報告:事務局 塚田結子)

平成二十年事業計画

(年間開催予定)

- 1 啓発・普及
 - 精神保健福祉啓発事業
 - 「つとてい」(フェスタ)の開催……………1回
 - 会報誌「パンフレット」等の発行
 - ホームページの運営・管理……………1~2回
 - 啓発資料作成 配布……………2回
 - 会報誌の作成 配布……………3回
 - 情報提供……………随時
- 2 研修・調査研究
 - 研修会の開催
 - こころの健康講座……………1回
 - 勉強会の開催(調査研究部会担当)……………随時
 - アンチレジユティス(反偏見)に関する研修会の共催……………1回
- 3 団体育成
 - 関係団体の支援、育成
 - 患者会、家族会、断酒会、ボランティア団体等の活動支援……………随時

伝言板

甲賀地域精神障害者家族会「のぞみ会」 (社)甲賀・湖南人権センター主催 第7回精神保健福祉講座

「うつ病 正しく知って治す～大切な人の命を守る～」

日 時…平成20年9月26日(金) 13:30～15:00(受付13時～)
場 所…南部振興局甲賀県事務所 4A会議室
講 師…田中和秀先生(ひつじクリニック院長)
参加費…無料 申込み…不要
問合せ…(社)甲賀・湖南人権センター TEL/0748-65-4020

滋賀県立精神保健福祉センター 滋賀県精神障害者患者家族会連合会「鳩の会」主催 報道と精神障害を考えるシンポジウムⅡ ～偏在する情報と精神障害者について考える～

～Anti-prejudice(アンチプレジューディス)のために～

日 時…平成20年10月10日(金) 13:30～16:30(受付13時～)
場 所…フェリ工南草津5階大会議室(JR南草津駅より徒歩約4分)
内 容…シンポジウム「精神障害者に関する情報の偏在について」
・シンポジスト
小黒純氏
(龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科准教授)
篠原由利子氏
(神戸親和女子大学発達教育学部福祉臨床学科准教授)
辻元宏
(滋賀県立精神医療センター病院院長兼滋賀県立精神保健福祉センター所長)
新聞記者1名を予定
参加費…無料
後 援…滋賀県精神保健福祉協会
問合せ…滋賀県立精神保健福祉センター
TEL/077-567-5010(担当:佐保田)



笑ってメンヘル第7回総会と集い

日 時…平成20年10月5日(日) 14:00～16:30
場 所…地域生活支援センターまな(JR南彦根駅西口徒歩5分)
講 演…「笑いをビジネスに活かす方法」
講 師…矢野 宗宏氏(日本笑い学会理事・ユーモアコンサルタント)
他、パフォーマンス(漫才、落語、演奏など)予定
参加費…300円
主 催…日本笑い学会・笑ってメンタルヘルス滋賀支部
連絡先…南彦根クリニック
TEL/0749-24-7808 FAX/0749-24-7807

こころの会 例会

日 時…平成20年10月12日(日) 13:30～15:30
場 所…県立男女共同参画センター研修室B
(JR近江八幡駅南口徒歩10分)
内 容…現在悩んでいること、業のこと、病気のこと、等
申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)
TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

精神保健福祉協会 調査研究部会 事業 「就労と結婚を語ろう!!」

日 時…平成20年10月30日(木) 13:30～15:30(受付13時～)
場 所…地域生活支援センター風
(JR野洲駅より近江バス10分「八夫口」すぐ)
内 容…・当事者の方々からの体験発表
・コーヒーブレイク
・フリートーク
参加費…無料 申込み…不要
共 催…医療法人周行会 地域生活支援センター風
問合せ…精神保健福祉協会事務局 TEL/FAX 077-567-5250

編集後記

◆暑かった夏もようやく終わりを迎えようとしています。「今年の夏の暑さは特別ですね。参りましたね。」などといった挨拶を、あちこちで交わしていたら、ある人に「去年の夏は日本記録が出ましたよ。」と言われました。どうして今年の方が厳しい暑さと感じてしまったのでしょうか。不思議です。
◆北京オリンピックの記録ラッシュが暑さを呼んだのでしょうか。期待通りに活躍した人。期待はずれだった人。思わぬ活躍をした人それぞれ物語があり、ついついTVを見てしまいました。それにしても中国は国家の威信をかけて、オリンピックの成功を演じました。その際の部分も随分報道されました。今後お隣の大国がどのように変わっていくのか興味深いところです。
◆「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」が厚労省で開かれています。来年の自立支援法見直し、「改革ビジョン」の後期5ヶ年の方針策定に向けて、月に1～2回のかなりの頻度で開かれ、今年末には何らかの方向性が打ち出される予定です。滋賀県からは谷畑湖南市長と私が参加しています。議事録が厚労省ホームページにアップされていますのでご覧下さい。これまで、H16年グランドデザインから自立支援法成立をめぐる動きの中で、精神科医療の問題、とりわけ地域生活を支えるのに不可欠な外来精神科医療について、公の場で取り上げられることがありませんでした。外来精神科医療の充実という観点から積極的に発言をしていきたいと考えています。
◆現在、精神科救急システムをどのように立ち上げていくかという検討会が全国的に行われています。同時に、退院促進事業、地域移行促進事業も全国的に展開されています。精神科救急、空床の確保、危機介入、退院促進、地域生活支援体制、これらはそれぞれ単独に議論すべき問題ではなく、全てつながり合っています。滋賀県は人口万対ベッド数が日本一少ない県です。そのような県でこれらの事業を行うのであれば、滋賀県独自のアイデアが必要でしょう。官と民の関係や医療と福祉の連携のあり方など、滋賀県独自のモデルが出来ればと思います。
(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

会員数

平成20年8月20日現在

一般会員	個人会員	174名
	団体会員	36団体
賛助会員	個人会員	10名
	団体会員	10団体